【初心者向け】

液タブと CLIP STUDIO で絵コンテを描く

目次

・どの液タブを買うか
・液タブの接続方法とセットアップ
・CLIP STUDIO の初期設定
・CLIP STUDIO の基本的な使い方
・CLIP STUDIO で絵コンテを描く

上記の順で記載してありますが、液タブにも CLIP STUDIO にもさわったことのない初心者向けに書いたので、「よくある質問」や「トラブルシューティング」も含みます。

そのため「絵コンテを描く」までの前置きが非常に長くなっています。

画像処理ソフトを使ったことがある方や、なんとなくわかる方は、前置きは全部飛ばして「絵コンテを描く」から読んでください。そのほうが早いです。

（黒地部分がマニュアル　青字部分は補足）

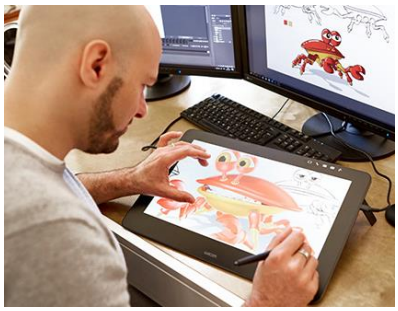
【どの液タブを買うか】

1）大きさ

・デスクに PC も置きたい。
・動画机の上で使う。
・個人の家で使う。

上記の場合は「16 型」をおすすめする。

会社の作画部でも 16 型を使用しているところは多い。



⇦16 型はこのくらいのサイズ感。
画面が A4 サイズより少し大きい。

13 型になると絵を描くにはかなり小さく感じるため、自宅に置いて使うなら 16 型がちょうどいい。

22 型や 24 型は、非常に大型で重く移動はできない。また専用デスクが必要になる。個人宅で使用するような大きさではない。

⇦22 型のサイズ感はこんな感じ。
通常のデスクトップ PC が横になった感じ。

持ち運ぶことを考える場合は、iPad の 13 インチか、MobileStudio Pro 13 がいいと思う。

2）どの 16 型を買うか

Wacom MobileStudio Pro 16	Wacom Cintiq Pro 16	Wacom Cintiq 16
￥356,400 メモリ 16GB/512GB 搭載 タッチ機能ありのモデル	￥181,440 タッチ機能付き	￥73,224 タッチ機能なし
15.6 型	15.6 型	15.6 型
Windows 10	搭載 OS なし	搭載 OS なし
Wacom Pro Pen 2	Wacom Pro Pen 2	Wacom Pro Pen 2
別売 Wacom MobileStudio Pro 用モバイルスタンド（3 段階）￥9,072　が必要	折りたたみ式スタンド 内臓（20 度） 	折りたたみ式スタンド 内臓（19 度）

	3 機種の　特徴　注意点　問題点
MobileStudio Pro 16 	**特徴** ●Wacom MobileStudio Pro には Windows 10 が搭載されており、スタンドアローンで使用できる。 ●Bluetooth 接続のキーボードを買えば、通常の windows PC と同様に使える。（キーボードは USB 接続もある） ●そのため、PC がなくても単独で使用できる。 ●また、パソコンに接続し従来の液晶ペンタブレットと同じ使い方をすることもできる。 ●backup PC がほしい方にはおすすめかもしれない。 （ノート PC を買ったほうが圧倒的に安いが） **注意点** ●別売りスタンドは必要。傾斜がないと描きづらい。 ●単独で PC なのだが、ディスクドライブや LAN ケーブルスロット等はいっさいついていないため、インターネット接続は Wi-Fi のみ。自宅に Wi-Fi 環境を作らないとなにもできない。 ●ソフトのインストールもインターネット経由のダウンロードでおこなう。 ●タッチ機能の「ある製品」、「ない製品」を選択できる。タッチ機能がある高価な機種を買っても差し支えないが、作画や絵コンテで使用する場合にはタッチ機能が非常にじゃま。アニメーターや演出は基本 OFF にして使っている。 ●したがってタッチ機能はなくてよい。（5 万円安くなる） **問題点** ●価格が高いという以外には特にない。
Cintiq Pro 16 	**特徴** ●PC に接続して使う。（板タブと同じ） ●もれなくタッチ機能がついてくる。 ●独立した PC ではないだけで、機能的には MobileStudio Pro と同等。 **注意点**

	●USB Type-C がついている PC でないと同梱されてくるケーブルだけでは PC に接続できない。 ●通常 Windows　PC の多くは USB Type-A がついているため、あいだに Wacom Link Plus を挟む必要がある。ただし Wacom Link Plus は同梱されている。（接続方法については後述する） **問題点** ●**そもそもＡＣアダプタとコンセントをつなぐケーブルが同梱していないという通常では考えられない仕様のため、「３ピン＋２ピンケーブル」別売りが必要。**これがないと電源につなぐことすらできない。 ●WindowsPC は**別売り映像ケーブルが必要**になる可能性が高い。 ●そのため、箱をあけてすぐ使えないケースが多い。先に自分の PC との接続方法を確認しておこう。 ●また PC によっては接続方法が非常に複雑になる。オールインワン PC とノート PC は特に注意。
Cintiq 16 	**特徴** ●安い。 **注意点** ●Cintiq Pro 16 の廉価版であるため、いくつかの機能が削られている。 ●タッチ機能はついていない。だが不要なので問題ない。 **問題点** ●視差がある。 ●ペン自体は同じなのだが、廉価版のため、上位機種 Pro 16 が採用している「視差を低減する技術　ダイレクトボンディング」が本体に搭載されていない。 ●上位機種 Pro 16 にも視差があり、狙ったところに描けないときがある。これが仕事ではイラッとくる。最大 1 ミリていどの視差で線がずれる場合がある。 ●その視差がこの廉価版では倍の 2 ミリていどに増える感

	じ。 ●したがってこの機種はプロにはおすすめしない。

3）**どこで買うか**

・Wacom ショップで買うより、Amazon で液タブと CLIP STUDIO を別々に買ったほうが安い。

・ちなみに CLIP STUDIO を買うときは、CLIP STUDIO PAINT EX を買わないとアニメーション機能はついてこない。

・絵コンテを描くだけなら 5000 円の CLIP STUDIO PAINT PRO のダウンロード版でいいのだが、演出は CLIP STUDIO で描かれた原画をチェックする可能性もあるため、23,000 円の CLIP STUDIO PAINT EX ダウンロード版を買っておこう。現状、個人のデジタル原画は CLIP STUDIO を使っている。

・もし CLIP STUDIO にさわるのが初めてという人の場合は、Amazon で箱入りのパッケージ版 24,500 円の購入をおすすめする。ダウンロード版より 1,500 円高いが、公式リファレンス BOOK2,500 円よりわかりやすいんじゃないか、という分厚い親切なマニュアルがついて来るためである。

【スタンドについて】

・アニメーターや演出は傾斜のある机に慣れているため、液タブにも傾斜があったほうがよい。

・Cintiq Pro 16 については、平机に置くなら、内臓のスタンドでちょうどよいと思う。

・MobileStudio Pro 16 についてはスタンドが内蔵されていないので別売りを買う必要がある。下記は純正品で使いやすいが、角度を自由に決められるものなど好きなタイプを買えばよい。

・どちらも、動画机の上で使うならスタンドなしでちょうどいい。

・タオルなどを挟んで角度をつける場合は、裏面の通気口をふさがないように。

【替え芯】

・液タブを買うとき、同時に替え芯も買っておこう。

・ペン先につける芯はプラスチック製だが、大量に描いているとペン先は減る。

・ペン先が減ると描きづらい。
・Wacom Pro Pen 2 用替え芯 20 本入り（保管ケース付き）を買っておけば、1 年以上は心配ない。1 か月に 1 本替えるかどうか、というくらい。

【ペーパーライクについての注意点】

・Cintiq Pro 16 などの液タブは筆圧感知するため、線の入りと抜きが表現できる。とはいえ、表面がガラスであることに変わりはない。ガラス表面にプラスチックのペンで描けばツルツル滑る感じがするのはいたしかたない。
・そのツルツル感をなくし、紙のような引っかかりを出してくれるのが「ペーパーライク」という透明フィルムである。
・スマホの保護フィルムに似た見た目のもので、【紙のような書き心地/上質紙】Wacom Cintiq Pro 16（DTH-1620 / K0）ペーパーライク フィルムなどがある。
・使用感としては紙にガリガリ描いている感じが出ていると思う。描きやすさだけでいえば、たしかにペーパーライクを貼ったほうが断然よい。
・しかし、アニメーションの絵描きにはおすすめしない。貼らないほうがよい。
・なぜなら、替え芯の消耗具合がハンパないからである。ほとんど手を休めず描くようなアニメーションの絵描きの場合、1 日最低でも 5 回ていど、芯を取り替える必要が出てくる。
・液タブは少しでも芯が減ると、いきなり非常に描きづらい。そのストレスはかなりのもので、多少ツルツルしてもペーパーライクなしで描き続けられるほうがよい。ちなみに会社内のデジタル作画部でペーパーライクを貼っているところはない。
・とはいえ、これは個人の好みだと思うので、それほど高価ではないペーパーライクをいちど試してみるのもよいだろう。はがすときはきれいにはがれる。
・そのかわりペーパーライクを使うなら、替え芯の在庫を 20 本単位で準備しておこう。

液タブの接続方法とセットアップ

Wacom Cintiq Pro 16　TDTH-1620/AK0（HDMI 接続対応）を使用する場合。

【セットアップ】

・液タブに取りかかる前に、PC に CLIP STUDIO をインストールしておくことをおすすめする。インストール ⇒ PC 再起動してから液タブの接続を始めるとあとが楽。

・セットアップの順番は下記の通り。

【液タブと PC を接続する】

① ほかのタブレットドライバ（板タブ、液タブ問わず）がインストールされている場合は、先にそちらをアンインストールする。タブレットドライバが 2 つあると誤作動するため。

② Wacom の公式サイトから Cintiq pro のドライバをインストールする。

③ いったん PC シャットダウン。

④ PC の電源が入っていない状態で、液タブを接続する。

⑤ 液タブ ⇒ PC の順で電源を入れる。（ということになっている）

⑥ 液晶タブレットをメイン画面にして映像が出る。

【セットアップ時のトラブル】

・Cintiq Pro 16 は下図のように PC に USB Type-C があれば、簡単に接続できる。

・しかし、基本的に Windows PC にはまだ USB Type-C は搭載されていないため、こんなに簡単につなげられる Windows PC はまずない。

・場合によっては形状が USB Type-C でも、映像出力に対応していない USB スロットがある。

・PC に USB Type-C がない場合、通常の USB Type-A と映像ケーブル（おもに HDMI）の 2 本を液タブから PC につなぐ必要がある。

【どのＰＣでも必要になる別売りケーブル】

・じつは USB Type-C があろうがなかろうが、必ず必要になるケーブルがある。

・それが**３ピン（液タブの AC アダプタのソケット）＜＞２ピン（プラグ：家庭用コンセントに挿すほう）ケーブル**である。

・これが Cintiq Pro 16 には同梱されていない。炊飯器を買ってきたら、コンセントにさせないコードしかついておらず、夕食のご飯が炊けなかったという事態と同等の謎仕様なのが Wacom の液タブだ。昔から Wacom は謎の多いメーカーだ。（ちなみに MobileStudio Pro 16 は単独でコンセントに挿せる）

・したがって同梱のＡＣアダプタ（パワーアダプタ）を、コンセントに挿すための別売りケーブルを先に買っておく。

BUFFALO 電源ケーブル DELL/HP 用 3 ピンソケット(メス)⇔2 ピンプラグ(オス)20cm
BSACC0802BKA

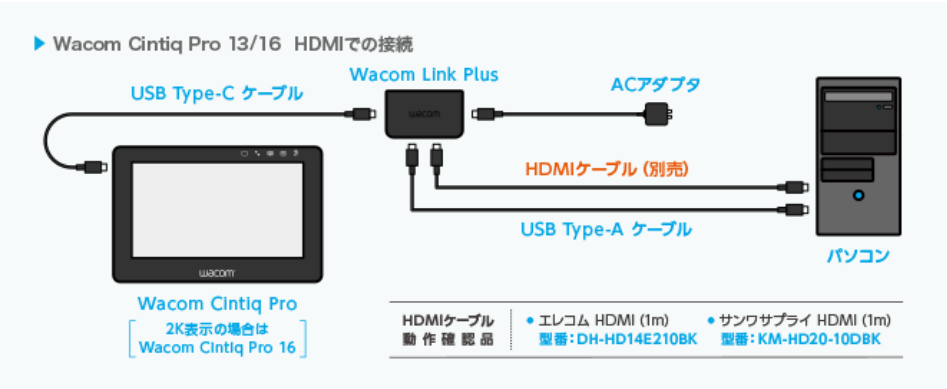
【USB Type-C がない PC に接続する個別の例】

・まず自分の PC にどのタイプの映像ケーブルスロットがあるのか確認する。

・Wacom 公式サイトで、自分のつなぎ方を見つけたら、**「別売り」**と記載されているケーブル等をあらかじめ購入しておく。

・それからつなぎはじめないとどうにもならない。

・USB Type-A スロットはふつうに PC にある。映像ケーブルのスロットは HDMI が多いと思う。その場合のつなぎ方はこうなる。



・別売り HDMI ケーブルは下のようなもので、これはどれでもとくに問題はない。

Amazon ベーシック HDMI ケーブル 0.9m（タイプ A オス - タイプ A オス）ハイスピード

【PC に映像ケーブルのスロットがない場合】

・ノート PC やオールインワン PC には映像ケーブルスロットがない場合もある。その際の接続方法は以下のようになる。

① 「USB Type-A 用　HDMI 変換アダプタ」を PC につなぐ。

② 「USB Type-A 用　HDMI 変換アダプタ」にはドライバが必要。

③ パワーアダプタをコンセントに入れてから

④ 同梱の USB Type-C ケーブルを液タブの USB Type-C ポートにさす。それを Wacom リンク+の USB Type-C につなぐ。（形状が違いうので見ればわかる）

⑤ ケーブル 1 本目　Wacom リンク+ ⇒ 同梱 USB Type-A ⇒ PC

⑥ ケーブル 2 本目（映像ケーブルのかわり）　Wacom リンク+ ⇒別売り 「HDMI ケーブル」　⇒別売り「USB Type-A 用　HDMI 変換アダプタ」 ⇒ PC の USB Type-A スロットとつなぐ。

⑦ 以上で接続をテストする。

・これだけで相当ケーブルがごちゃごちゃする。この仕様、ほんとうになんとかしてほしい。

・つなぎ方は上で正しいのだが、このつなぎ方でも液タブに映像が出ないことがままある。

・最初に疑ったほうがいいのは「USB Type-A 用　HDMI 変換アダプタ」だ。ほかはケーブルなので、まず問題は起こらない。

・しかしドライバが必要になるこのアダプタは、場合によっては問題が起こる。

usb hdmi 変換アダプター,CableCreation USB 3.0 HDMI アダプタ DisplayLink チップセット 2560x1440 対応 Windows/Mac 対応 ブラック

・↑↑↑上のようなものが「USB Type-A 用　HDMI 変換アダプタ」だが、液タブに

映像が出ない場合、まずこのドライバが正常にデバイスマネージャーで認識されているか確認する。

・Web でほかの方のブログで見たのだが、この変換アダプタは

　　・誤ってカメラとして認識されることがある。

　　・PC 側の USB スロットが複数あると思うが、認識されるスロットとされないスロットがあるので、認識されるスロットを探し当てるまで抜き差しする。

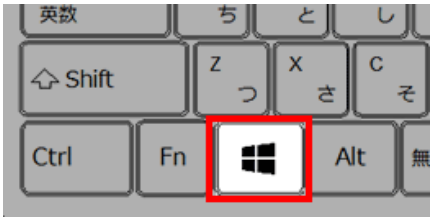
・等々、問題が起こりがち。すんなりいけば運がよく、すんなりいかなければいろいろやってみるしかない。最終的につながらない、ということはないので、どうしようもなければ詳しい人に頼めばいける。確実な機種とメーカーがわからなかったので、参考までにこの安くないほう（が品質もいいのかと思い）の変換アダプタを紹介しておく。できれば buffalo や Elecom などの老舗日本語製品がよいのではないかと思う。

【マルチディスプレイ設定】

・ウインドウズキー+「P」でマルチディスプレイ設定が出る。 ⇒ 「拡張」にする。

・これをしない限り、液タブにはなにも映らない。

・ウインドウズキーというのは下図。だいたいキーボードの左下にある。



・すると PC が Cintiq Pro 16 をもうひとつのディスプレイとして認識する。

・ディスプレイの位置やメイン側表示は、システム ⇒ ディスプレイ ⇒ 複数のディスプレイ（Windows10）で替えられる。

・基本は本体 PC をディスプレイ 1 、液タブを 2 にする。

・本体 PC と液タブに同じ画面が出ていると思うが、**液タブのほうは画像の比率が正しくない**状態だと思う（多くは）

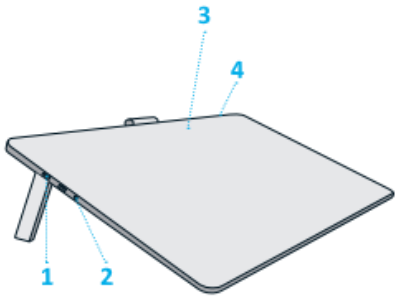
・「推奨」より、**解像度 1820×720 のほうが比率は合っている**と思う。

・したがってディスプレイ 2 をアクティブ（青く表示）にして、ディスプレイ解像度を PC 本体とできるだけ近づけてやる。

・※注意点　うっかり「片方のディスプレイだけ表示」に設定を変えると、次に起動したとき、片方のディスプレイが NO SIGNAL となってしまう。

・その場合は、もう一度ディスプレイ設定を変えてやるとなおる。

【Wacom Cintiq Pro の仕様】
http://101.wacom.com/UserHelp/ja/Features_CintiqPro.htm



1　USB-C ポート
2　マイク/ヘッドホンコンボジャック
3　タッチキー
4　電源スイッチ

2・マイク/ヘッドホンコンボジャック
3・タッチキー：Cintiq Pro をオンにすると点灯する 5 つのタッチボタン。タップして機能を実行できる。

※↑↑↑一番左のタブレットモード切り替えキーの問題点。
・これにさわると画面が消えてペンタブレット化する。もう一度押して液タブとして戻ってきたときに座標が大きくずれてしまう。しばらく元に戻らないことがある。
・タブレットモード切り替えキーにさわった場合は、長押しでキャンセル可能。
4・電源ボタン：電源ボタンを押してデバイスのオン/オフを切り替える。

1　USB-C ポート
2　SD カードリーダー
3　セキュリティスロット
4　折りたたみ式の脚

1・USB-C ポート（3 つ）：タブレットをコンピュータに接続したり、追加デバイスを接続するためのポート。
2・SD カードリーダー
3・ケンジントンセキュリティスロット：液晶タブを机などに固定するためのケー

ブルを取り付ける。

4・折りたたみ式の脚：角度をつけるにはこの脚を開く。開くとき、「バキッ！」という音がするが、そういう仕様なので驚かないように。

【液タブを使う】

・PC と液タブの電源を入れる。電源ボタンを 2 秒くらい押して、放す感じ。
・どちらからいつ電源を入れても問題なく作動するが、しないという記事もあったので、各自の自由で。
・通常、PC の電源を入れ、液タブの電源を入れる流れで問題ない。

【液タブの設定をする】

・すべてのプログラム ⇒ ワコム　タブレット
・ここに「ワコム　タブレットのプロパティ」がある。
・よく使うので、先にデスクトップ上に「ワコム　タブレットのプロパティ」のショートカットを作っておくことをおすすめする。
・ある朝、突然ペン先の位置がずれている、ということが、まま起こるのが Wacom の液タブである。（これは MobileStudio Pro 16 でもおなじことが起こる）そのとき位置調整をおこなうのが「ワコム　タブレットのプロパティ」上だ。
・では設定していこう。「ワコム　タブレットのプロパティ」をクリック。ここでの設定は完全に個人の好み。設定の一例を以下にあげる。

① デバイス ⇒ Cintiq Pro 16
② 入力デバイス ⇒ ファンクションとタッチパネルは OFF。プロペン 2 が ON。
③ アプリケーション ⇒ すべて。そしてここで CLIP STUDIO を追加しておく。
④ タッチパネルオプションは「□タッチ入力を有効にする」にチェックしない。
⑤ 「ペン」で、ペンのカスタマイズをする。初心者はとりあえず以下で。
　・ペン先の感触 ⇒ 左から 2 番目の柔らかさ
　・ダブルクリックの距離 ⇒ 中間点
　・傾き感度 ⇒ ノーマル
　・ペンのボタン割り当て。上が右クリック、下がスクロール移動。
　・テールスイッチ ⇒ 消しゴムのまま。
　・位置調整 ⇒ 位置調整 ⇒ 「+」マーク 4 カ所を順にペン先でさわっていく。⇒ OK
　・位置調整はいくらでもやりなおせるので心配しない。描いている途中で変更しても反映される。

【位置調整の注意点】

・視野角を維持したまま「+」マークをさわること。
・つまり自分が液タブ上で絵を描く姿勢、角度、目の近さを維持したまま、4 カ所の「+」をペン先でさわっていくということ。
・「+」は画面の四隅に出るので、そのたびに「+」マークに近寄っていってさわるのではない。見る位置を変えずに四隅にさわる。
・どういう角度で液タブ画面を見ているか、ということを液タブに教えるための位置調整だからである。
・コンテ用紙や動画用紙を少し斜めにして描く癖のある人は、液タブを斜めに置いた状態で、この位置調整をおこなうとよい。

【芯の取り替えかた】

・芯はペンスタンドの底面にある穴に引っ掛けて取る。穴に差し込んだら、斜めに引き上げる感じで引っかける。少し引っぱり出したら、手で引き抜く。

・ふたに図解もついている。
・そしてこの底面の縁に「open」という文字があり、その方向に回すと底面がはずれ、中に予備の替え芯が入っている。
・新しい芯は、手でペン先に差し込む。
・予備の芯は「黒色の標準芯」と「白色のフェルト芯」が入っている。
・のであるが、Cintiq Pro 16 の説明書には「フェルト芯は表面に傷がつくおそれがあるため、推奨しておりません」と書かれている。推奨しないものをなぜつけてくるのか謎である。
・若干ひっかかりが出てフェルト芯のほうが描きやすいのは事実だが、量を描くアニメ業界の絵描きにはおすすめしない。使う際は自己責任で。

CLIP STUDIO の初期設定　絵コンテ用

セルシス CLIP STUDIO PAINT EX 使用
（黒地部分がマニュアル　青字部分は補足）

【インストール】

・インストールしたら CLIP STUDIO を立ち上げ ⇒ PAINT ⇒ シリアルナンバーを入力 ⇒ ライセンスを登録
・最新版にアップデート、が案内されるのでアップデートしておく ⇒ 再起動
・CLIP STUDIO はほかのソフト同様、2 つの PC にインストールできる。もちろん 2 つ同時に立ち上げることはできない。
・なお、絵コンテ用に PAINT を開くときは「マンガ」でも「アニメ」でもなく、「イラスト」で立ち上げる。

【CLIP STUDIO 起動　ショートカットについて】

・絵コンテを描く際に使うのは CLIP STUDIO の「PAINT」である。
・しかし、CLIP STUDIO が自動的に作るショートカットで起動すると、CLIP STUDIO センター的な画面が立ち上がり、そこから「PAINT」を選ばなければならない。毎回のことだとこれが面倒。
・そのため、直接「PAINT」が立ち上がるショートカットを作成する。（気にならない人は作成しなくてもよい）
・直接起動のショートカット作成方法。
　・C:Program Files　¥CELSYS　¥CLIP STUDIO　¥CLIP STUDIO PAINT
　・このフォルダの中にある「CLIPStudioPaint」のアイコン（アプリケーション）を、右クリックで、デスクトップにドラッグ＆ドロップ。
　・「ショートカットをここに作成」を選択。
　・これでデスクトップに直接起動のショートカットアイコンを作成できる。
・バージョンアップをおこないたいときは CLIP STUDIO センター的なほうを立ち上げる。

【カスタマイズ】

・この最初の設定は自分が使いやすいようカスタマイズするものなので、とくになにもせず、初期設定のままで問題なく使える。
・とはいえ仕事で使うには、使いやすい設定をしておかないと、いろいろな場面でイラ

っとくる。
・以下、スタマイズいろいろ。

【メニューの拡大表示】
Cintiq Pro 16 の場合
・前述したディスプレイの解像度に設定してあれば、文字はちょうどよい大きさに表示されている。
・画面の文字が小さくて見づらい場合、ディスプレイ設定で解像度を変えるなどできる。文字が若干にじむ場合もあるので、各自の好みで。

MobileStudio Pro 16 の場合
・MobileStudio は PC なので、デスクトップで右クリック ⇒ ディスプレイ
⇒ テキスト、アプリ、その他の項目のサイズを変更する
⇒ 推奨 250%になっているが
⇒ 300%や 350%にすると文字が大きく読みやすくなる。

【画面の明るさ調整】
・デフォルトで気にならない人は変更しなくて OK。
・だが、絵コンテや作画は一日中液タブを見つめているため、かなり目に負担がかかる。透写台より数倍疲れる。よくいわれるブルーライトのせいというより、PC や液タブには瞬きせず凝視してしまう特性があるからではないかと個人的には思う。
・「ブルーライトがカットされてる！」という CM があるが、ブルーライトを見分けられるなら、Wi-Fi が飛んでいるのも見えると思う。
・まあ、そのようなわけで、画面をあまり明るくしないで使用することをおすすめしたい。毎日のことなので、目を疲れさせない工夫だ。
・絵コンテや作画なら、決まった色を使うだけなので、カラー発色は気にせず、ギラギラしない画面で描いたほうが目に優しい。

明るさ調整　Cintiq Pro 16 の場合

・タッチキーの
・ワコムディスプレイ設定をタップ ⇒
・ワコムディスプレイ設定が開く。

明るさ　デフォルトは 75 ⇒ 35 に変更。
コントラスト　デフォルト：50　さわらない。
色空間　Adobe RGB
ガンマ　デフォルト 2.2　さわらない
⇒ 保存

明るさ調整　MobileStudio Pro 16 の場合

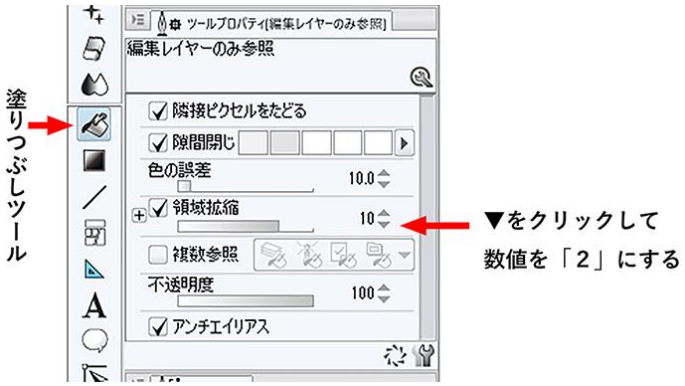
・PC のスタート ⇒ すべてのプログラム ⇒ ワコム　⇒ ディスプレイ設定
⇒ コントラスト ⇒ とりあえず 35 にしておいて、気になったらあとでまた調整。

※明るさ調整の注意点

・どちらの機種でも、明るさ調整をする際は、CLIP STUDIO 画面に絵を出しておいておこなう。ゲージを動かすと、リアルタイムで絵の明るさが変わるため、調整がしやすい。
・このときついでに　ディスプレイ設定の ⇒ 色空間を　ネイティブ ⇒ Adobe RGB（または sRGB　好みで OK）に変更しておく。これで見慣れた色になる。
・CLIP STUDIO のデフォルトはネイティブになっているのだが、これは色がかなりギラギラする。液タブで描いた絵を Photoshop で見ると、予想よりかなり彩度が落ちている。絵コンテや作画では気にする必要がないのだが、印刷媒体の絵を描くときこれは致命的なので、最初に変更しておくことをおすすめする。（変更しても液タブは彩度が高めだと思う）
・またイラスト等を描く場合は、いったん画面の明るさをデフォルトにもどしてから色を塗る。そしてできれば Photoshop やフォトビューワーなどで色を確認したほうが安全だ。

【領域拡縮】

・デフォルトは「10」だが、これはありえない数値。何のことかわらなくて差し支えないので、初期設定の時点で以下のように変更しておいてほしい。（デフォルトの数値は、絵コンテや作画でもきびしいが、お絵描きのときは致命的に使えない）
・「塗りつぶし」ツールをクリック。
・ツールプロパティが出るので、領域拡縮「２」にしておく。細い線を使う人は「１」でよい。



【各種パレットの位置】（ワークスペース）

・ツールやレイヤーパレットなどの位置を決める。

・その際、よくわからなかったら、最初は　ウィンドウ ⇒ ワークスペース ⇒ イラストで始めるのがよいと思う。あとでいくらでも変えられるので。

【レイヤーパレットの幅】

・レイヤーパレットの幅を狭くすると、操作用アイコンが隠れてしまう。

・最初はすべてのアイコンが見える幅にして使う。

【テキストツールの設定】

・選択したレイヤーの上に
テキストレイヤーを作成する
ための設定。
・意味不明でよいので必ずして
おかないと、あとで困る。

① テキストツールを選択
② ツールプロパティパレットの右下の工具のマークをクリック。
[サブツール詳細]パレットが出るので、
③ 左側メニューの「編集設定」を選択。
④ 「追加方法」を「常にレイヤーを作成」に変えておく。

⑤ さらにデフォルトでは行間が狭いので
「行間・揃え」で
指定方法：パーセント指定
行間：150　にしておく。

【環境設定】

・ファイル ⇒ 環境設定　で自分の好みのカスタマイズをしてよいが、わからない場合は、ここで変更の記載があるものだけ変更し、ほかはさわらない。

インターフェイス

・初期設定では黒地に白文字だが、白地に黒文字のほうが字は見やすいかもしれない。だがデフォルトの黒地のほうが目には優しいのではないかと思う。好きなほうで OK。

レイヤー・コマ

・⇒ レイヤー ⇒ 複製時のレイヤー名 ⇒ 「変更しない」に変えておく。
・これは複製したレイヤーに「コピー」という文字をつけないため。

ファイル

・⇒ ファイル ⇒ キャンバスの復元を有効にする ⇒ 復元情報の保存間隔 ⇒ 60 分（上限）に書き換えておく。

・デフォルトは 15 分だが、15 分ごとに自動保存が始まり、作業ができなくなるのはかなりイラッとする。

・60 分でも短いくらいだが、これが始まったら、いっとき作業をあきらめて目を休めるなどする目安にはよいかもしれない……ということで 60 分に設定。

テキスト編集

・⇒ 表示 ⇒ 本文フォント ⇒ 游ゴシック Midhium　10pt　が絵コンテでは見やすいと思う。

・手描きの文字とくらべるとかなり小さい文字になるのだが、活字はこのくらいの大きさでも十分読める。

・文字の大きさはじっさいにキーボードで書く際に変えられるので心配ない。

・すべての環境設定が終わったら ⇒ OK で閉じる。

・要するにこれらはすべて、作業中にイラッとしないための設定変更だ。

・「なんだかイラっとしてばかりだね」と思う人もいるだろうが、プロは効率を求めるので、使ってみればわかると思う。

CLIP STUDIO の基本的な使い方　絵コンテ用

【プルダウンメニューやツールの意味】

・暇なとき、いらない絵や写真を使い、いろいろ遊んでみるのがよいと思う。今回は絵コンテを描くことに的を絞って説明してある。

・絵コンテを描くだけなら、限られた機能しか使わないので、２日でできるようになる。

・絵コンテの描き方がわかれば、そこから原画やカラーイラストを描くまでのハードルは低いと思う。

・わからないことは、セルシス公式「はじめての CLIP STUDIO」
https://tips.clip-studio.com/ja-jp/official
やパッケージ版についてくるマニュアルを見よう。

【困ったときの初期化起動】

・PC やソフトウェアには、よくわかっていない人を困らせるオバケが組み込まれていると思う。慣れている人なら絶対になるはずもない、ありえない状態が初心者には起こる。

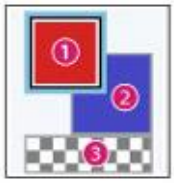
・どうしようもなくパレットなどがハチャメチャになったら「初期化起動」をおこなおう。これですべて解決する。データには影響しないので心配ない。

・初期化起動のしかた（カラーセットを直したい場合）は以下のとおり。

1. CLIP STUDIO PAINT が起動している場合は、いったん終了。
2. CLIP STUDIO（センター的なほう）を起動。
3. 「Shift」キーを押しながら、「PAINT」をクリック。
4. 「初期化起動」画面が表示される。
5. 「カラーセット」のチェックボックスにチェック。 ⇒ OK
6. CLIP STUDIO PAINT が起動する。 ⇒ なおっている。

【ツールパレット】

・A ツールパレットは、ウィンドウ ⇒ ツール　で表示できる。パレットがいなくなったらここから出そう。



・B カラーアイコンは、現在選択されている描画色と、すぐに使用可能な描画色を表示している。上の場合は順に「赤」・「青」・「透明」がすぐに使用可能で、青い枠で囲まれた「赤」が現在選択されている描画色ということ。各表示部をクリックすると切り替えられる。

・いま使っている色の部分をダブルクリックすると、「色の設定」ダイアログが表示され、微妙な色の調整ができる。

【カラーサークル】

・CLIP STUDIO のデフォルトはこの「カラーサークル」

・これはこれでイラストには便利。

【カラーセットパレット】

・ウィンドウ ⇒ カラーセットで出てくる。

・絵コンテ、作画の場合は決まった色しか使わないのでこちらのほうが使いやすいと思う。

・よく使用する色だけを集めてカラーセットを作れる。

【カラータイル】

・上のカラーセットの一つ一つの色を「タイル」という。

・絵コンテでは限られた色しか使わないので、大きなタイルのほうが見やすい。

・変え方は ⇒ カラーセットパレットの左上をクリック ⇒ 表示方法で好きな大きさを選ぶ。

【各ツールのプロパティ】

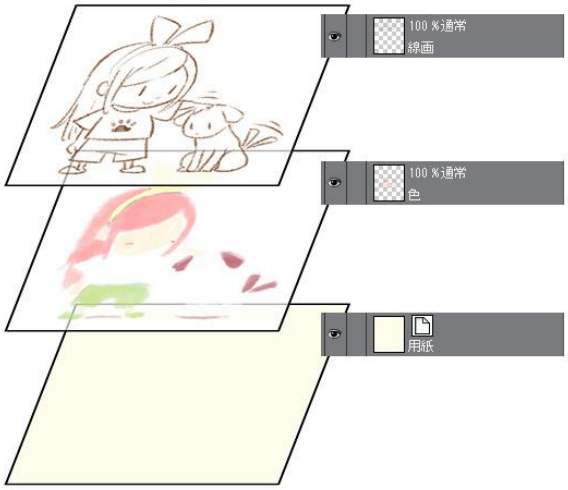
・最初は、プロパティで設定を変えるとわからなくなるので、線の太さや色以外はデフォルトで使用する。

・CLIP STUDIO は基本的に初期設定がお絵描き用にできているため、おかしくなったら初期設定に戻すとなおる。各ツールパレット下部にある風車のようなマークが初期設定に戻すボタン。

【レイヤー】

・レイヤーとは「セル」とおなじ透明なフィルムのようなもの。

・デジタルの描き方で特徴的なのは、紙、色、線などを、それぞれ別のレイヤー（セル）にして、重ねていくこと。



⇐この「用紙」の位置にスキャンした絵コンテ用紙を置き、上の透明レイヤーに絵や文字を書いていく。

・会社によってはデジタル絵コンテ用紙をデータでくれるのでそれを使う。

・とはいえ、絵コンテに限っては解像度がどうであれ、その会社の絵コンテ用紙を使ってさえいれば、どのソフトでどのように描いても、じっさいは差し支えない。

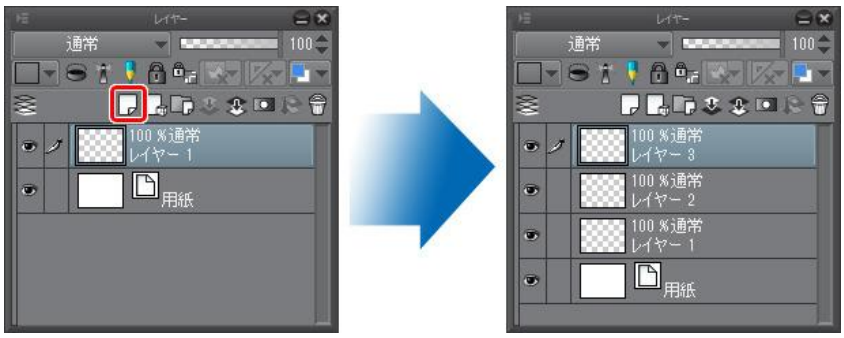
（作画は好き勝手な設定で描いては絶対にだめ）

【レイヤーを追加する】

・絵コンテ用紙を開いたら、その上に絵や文字を描くための「新規レイヤー」を作成する必要がある。

・「レイヤーパレット 上部にある「新規ラスターレイヤー」をクリックするとレイヤ

ーを追加できる。２回クリックすると２枚のレイヤーを追加できる。



【ラスターレイヤーとベクターレイヤー】

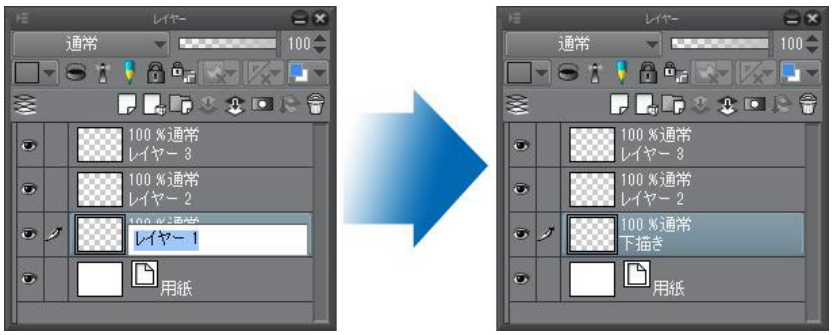
・上記では「新規ラスターレイヤー」を作っているが、基本的にはラスターレイヤーだけ使っていれば問題ない。

・絵を手描きするレイヤーが「ラスターレイヤー」である。

・「ベクターレイヤー」については初心者にわかるように説明するのは無理なので、必要になるまで使う必要はない。必要になったらわかると思う。

【レイヤー名の変え方】

・「レイヤー 1」のレイヤー名をダブルクリックすると書き換えられる。



・レイヤー名のつけ方に決まりはないが、発注元にデータを提出する場合、誰が見てもわかりやすいレイヤー構成とレイヤー名にしておくことが望まれる。

・絵コンテなら、ページ№をレイヤー名にしておくとわかりやすい。

【レイヤーの入れ替え】

・レイヤーをドラッグ＆ドロップで順番を移動できる。

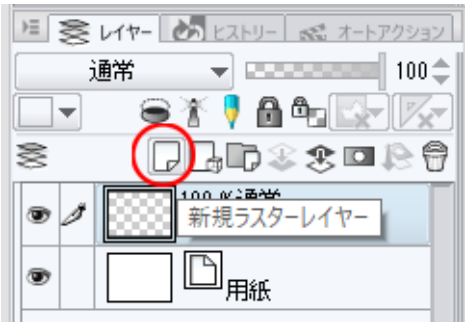
【レイヤーの複製を作る】

・　⇒ 複製したいレイヤーを選択する

⇦この状態で右クリックすると
メニューが出る。
上から５番目に
「レイヤーを複製」があるので
クリック。複製ができる。　⇒

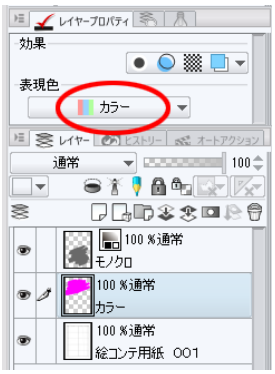
（この図では「レイヤー２のコピー」というレイヤーができているが、最初に環境設定で「コピー」の文字がつかないように設定してあるため「レイヤー２」がふたつできる）

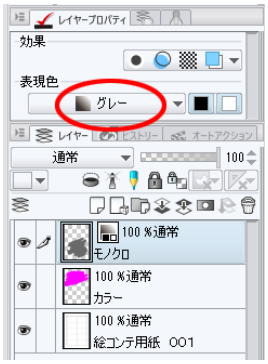
・ほかには、複製したいレイヤーを選択し、そのまま「新規ラスターレイヤー」のアイコンにドラッグ＆ドロップする方法がある。これが時間的にはいちばん早いと思う。



【カラーにするか、モノクロにするか】

・CLIP STUDIO ではレイヤーごとにカラーかモノクロ（グレー）かを決める。





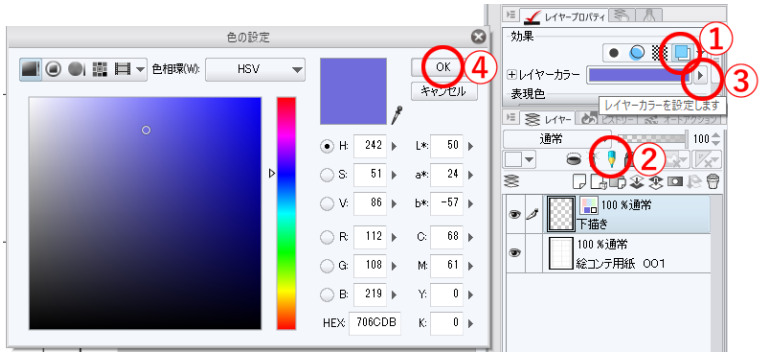
・デフォルトはカラーなので、そのまま描いていけばいい。CLIP STUDIO はファイルが軽いので特段モノクロにする必要はない。

【下描きレイヤー】

・CLIP STUDIO には「下描きレイヤー」というものがあり、表示されていてもプリントされないなどの機能を持つ。

・絵コンテを描くだけなら使う必要もないが、便利だと思ったら使えばよい。

・使いたいときは以下のように色を調整することをおすすめする。



・「下描き」レイヤーを選択しておき

⇒ レイヤープロパティ（レイヤーパレットの上にあるパレット）

① 「効果」の右側にある「■」をクリック。 ⇒ 下描きの線色が変わる。

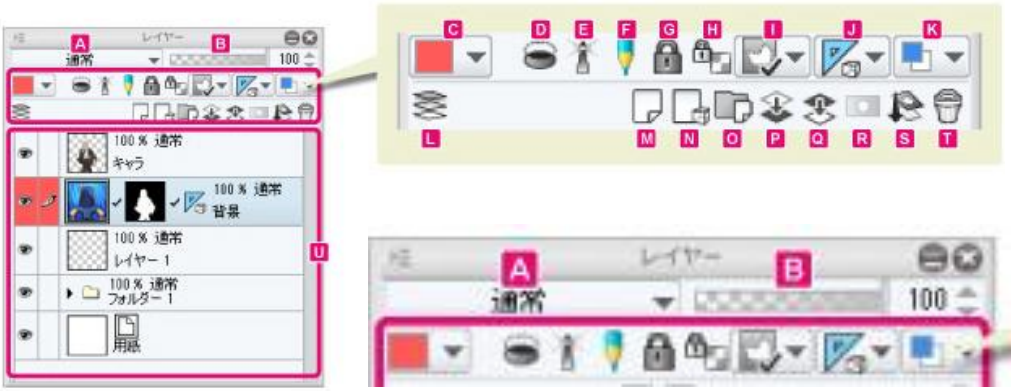
② 鉛筆マークの「下描きレイヤーに設定」をクリック。

③ 「■」の色を変えるには、レイヤーカラーの右にある「▶」をクリックして

④ 好きな色を拾う ⇒ OK

・下描きの色は好みでよいが、若干彩度の低い薄めの色が向いている。デフォルトの色はかなり強くて使いづらい。

【レイヤーパレットの機能】



A.合成モード

・基本「通常」で使う。

・ほかに絵コンテで使う可能性があるのは「乗算」これについては後述する。

B.不透明度

・選択したレイヤーの、不透明度を変えられる。絵を半透明にできる。

・絵コンテでの使い道。がっつり黒色で下描きした絵を、不透明度 30 くらいにすると下描き線が薄めのグレーになる。その上に清書レイヤーを作成し黒色で描くという使い方は便利。

G.レイヤーをロック

⇦鍵のマーク

ロックすると、このレイヤーは描いたり消したりできない。うっかり変更しないように、最初のころは完成したページにロックをかけておくとよい。

鍵のマークを再度クリックすると OFF にできる。

・なぜか線が描けない、というときが初心者にはよくある。ロックされていると描けないので確認しよう。

M.新規ラスターレイヤー

・現在選択しているレイヤーの上に、「ラスターレイヤー」を新規に作成する。

O.新規レイヤーフォルダー

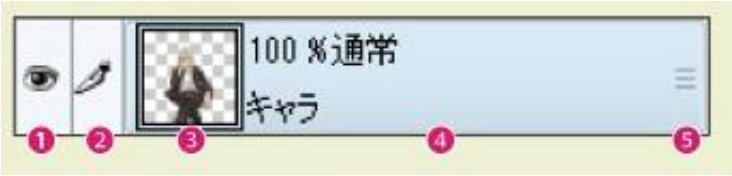
・「レイヤーフォルダー」を新規に作成する。(レイヤーが複数入ったフォルダ)

T.レイヤーを削除

・現在選択しているレイヤーを削除する。「Delete」キーでも同じ。

・初期設定として、選択しているレイヤーを削除してみる。すると「選択中のレイヤーを削除しますか」パレットが出るので、「次から表示しない」にチェックしておく。いちいち聞かれると作業が滞るので。

【レイヤーについているマーク】



① レイヤー表示/ 非表示

・目のアイコン。クリックすると、レイヤーの表示・非表示が切り替わる。

② レイヤー描画可・描画不可

・いま選択しているレイヤーに、ペンのアイコンが表示される。

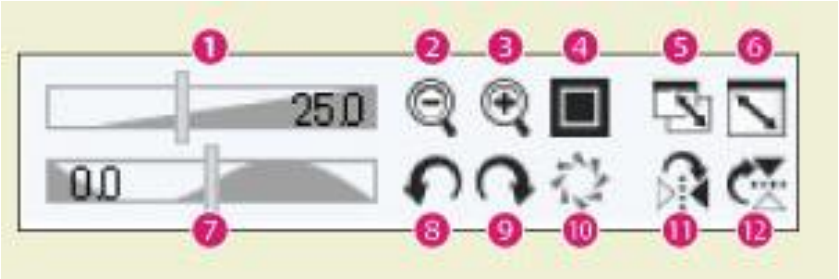
・複数のレイヤーを同時に選択するにはこの欄にチェックを入れる

・そうすると、複数レイヤーを同時に変形または移動できる。

③ レイヤーアイコン

・レイヤーの中身がサムネイル的に小さく表示される。

【ナビゲーター】



いろいろあるが、絵コンテを描くとき、すぐ必要になるものだけ説明する。ほかは使っていればなとなくわかる。絵コンテだけなら、なんとなくわかれば問題ない。

②ズームアウト

・クリックすると、画像を縮小表示。

④　ズームイン

・クリックすると、画像を拡大表示。

⑧　左回転（以下の機能はすべて描きやすい方向から描くためにある）

・クリックすると、キャンバス全体が左回転表示。

⑨　右回転

・クリックすると、キャンバス全体が右回転表示。

⑩　回転をリセット

・これで角度を元にもどす。

⑪　左右反転

・キャンバスが左右反転。もう一度クリックすると戻る。

⑫　上下反転

・キャンバスが上下反転。もう一度クリックすると戻る。

（左回転、右回転については、慣れてきたらナビゲーターを使わず、キーボードを使うと早い。Shift+移動ツール（ペンの下ボタン）でパレットを自由に回転できる）

【画面からなにかいなくなったら】

・慣れないうちは、必要なパレットがいなくなることがある。

・あわてずウィンドウ ⇒ ワークスペース ⇒ 基本レイアウトに戻す
とすれば、必要なパレットなどが戻ってくる。

【絵の表示位置とサイズを変える】

・絵の表示位置をずらす方法

・絵の左下が見たい、というときは、ナビゲーターで赤枠を移動させると早い。

・少しだけ左が見たいなら「移動ツール（手のひらツール)」を使う。

・タブレットペンのボタンに「移動ツール（手のひら)」を割り当てると便利。

・移動ツールはどの方向へも自由に移動できる。

・水平、垂直移動をしたいときは、Shift を押しながら移動する。

・絵の拡大縮小（表示）

・ナビゲーターの「＋」「－」を使う。

・Ctrl＋「＋」キーで拡大、Ctrl＋「－」キーで縮小　もおなじ。

・マウスのスクロールボタンでもできる。

【選択範囲】

・絵を描いてしまった後で、位置をちょっとずらしたいな、
　というときに使う。
・点線で囲まれた部分だけが、変形や移動の対象になり、ほかには
　影響しない。

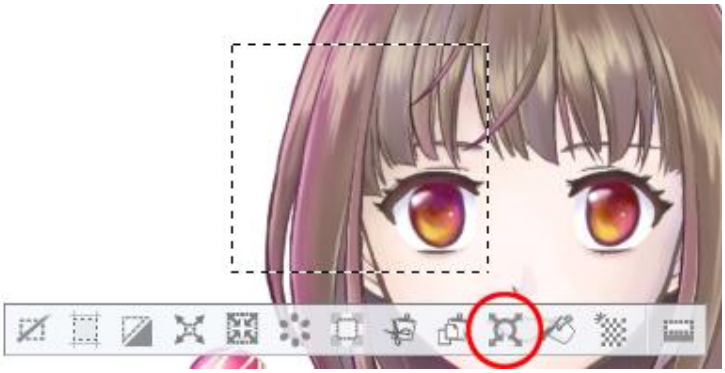
【選択範囲の位置、大きさ、角度を変える】

まず選択範囲を作る

・位置を移動するだけの場合（ページ全体を動かすときは選択範囲はいらない）

・移動ツールをクリック。
・選択範囲を自由な位置に移動する。
・移動後は、ランチャーの左端で、**選択範囲を解除しておく**のを
　忘れずに。

・大きさや角度を変える場合



・選択範囲を作ると、近くに「ランチャー」というのが出る。
　・この中の「拡大・縮小・回転」マークをクリック。

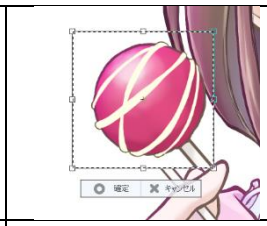
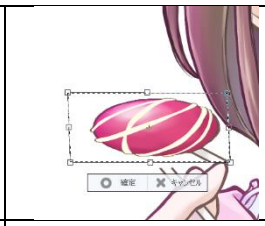
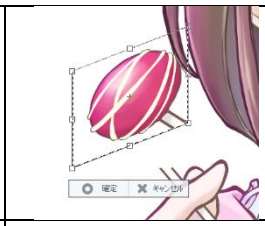
・□で拡大・縮小・移動ができる。
・□の外側にカーソルを置くと回転のマークが出る。角度はそこで変える。
・いい感じになったら「確定」する。

・ほんらいは変形のショートカットを覚えるのが一番早い。「Ctrl＋T」

【選択範囲を解除する】

・変形が終わったら、**ランチャーで必ず「選択を解除」しておく。**
・ショートカットなら「Ctrl+D」
・解除を忘れると、選択範囲の外にはなにも描けない状態になる。

【変形の種類】

			
選択範囲 ランチャーの 「拡大･縮小･回転」 （Ctrl+T） 100％　変形前	⇒拡大した状態	タテ･ヨコの比率を 変えるときは 選択範囲 ⇒ 編集 ⇒ 変形 ⇒ 自由変形 （Ctrl+Shift+T）	これも自由変形

【覚えておいたほうが楽なショートカット】
・ひとつ前へ戻す　Ctrl+Z　（Z を押し続ければいくらでも戻る）
・選択範囲を変形する　Ctrl+T
・選択したレイヤーを、下のレイヤーと統合する　Ctrl+E　　基本説明は以上。

CLIP STUDIO で絵コンテを描く

描き方は自由だが、とりあえずこうすればすぐ描ける、という手順を説明していく。

【描き方の流れ】

・絵コンテ用紙を開く。
・新規レイヤーを作る。そのレイヤーに絵や文字を描く。
・保存して提出。以上。
・なんとなくわかる人はこれでできる。なにがなにやら、という人は以下の手順で進めてみよう。

【絵コンテ用紙を準備する】

・会社からデータでもらえる場合は、それを開く。（backup はとっておくこと）
・紙の絵コンテ用紙をスキャンして使う場合は、以下の手順で。
・絵コンテ用紙をスキャンする。スキャン設定は
　グレースケール
　解像度 400dpi
　100%（拡大・縮小せずにスキャンする）
・スキャンした画像を CLIP STUDIO で開く。（もし使えれば Photoshop）
・紙をスキャンしているので、ゴミや汚れ、スキャン時のカゲなどがついている。このままでは使えないので、きれいな絵コンテ用紙に加工してやる。
・最初に紙の角度が水平、垂直になっているか、グリッド線などで確認し、ずれていれば回転させて修正する。
・次にレベル補正、明るさ・コントラストの調整、ゴミ取りをして、きれいな絵コンテ用紙にする。この段階でテンプレートとして保存する。このテンプレートに加工するまでの手順は初心者にはむずかしいので、ランチでもおごって画像処理ができる人に頼んだほうが早い。
・テンプレートは backup フォルダを作り、そこに一式しまっておく。絵コンテを描く際は、backup ではないほうのテンプレートを使う。

【絵コンテを描く】

・描く順に、そのつど必要になる操作を説明していくので、ところどころにツール説明などが入る。不要なら読み飛ばしてほしい。

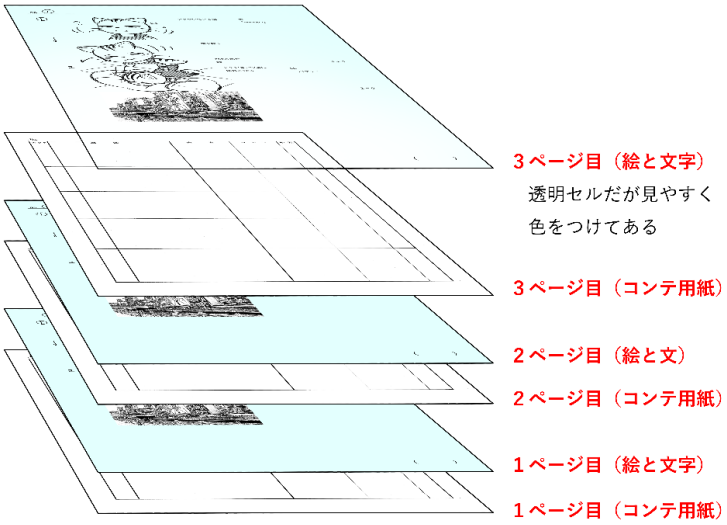
【絵コンテ用紙を開く】

・　⇒ ファイル ⇒ 開く ⇒ 絵コンテ用紙を選んで ⇒ OK

【リネーム】

・開いたら、即「別名で保存」する。別名は自由だが「＃〇〇　サブタイトル」のようなものがわかりやすい。
・CLIP STUDIO で別名保存する際は、「CLIP STUDIO FORMAT」形式でよい。
・絵コンテを描き終えるまではこの「CLIP STUDIO FORMAT」拡張子：clip でかまわない。
・ただし、ファイルを制作に提出する際には、別名保存でファイルの種類を「Photoshop ドキュメント」に変更する人が多い。
・これは制作が Photoshop は持っていても CLIP STUDIO は持っていないことがよくあるための措置である。制作が CLIP STUDIO 対応していれば、CLIP STUDIO ファイルのままでかまわない。（CLIP STUDIO ファイルのほうがかなり軽い）
・ただし CLIP STUDIO で Photoshop ファイルは開けるが、Photoshop で CLIP STUDIO ファイルは開けない。

【絵コンテのレイヤー構成】



・上図のように、絵コンテ用紙の上に透明レイヤーを作成して描いていく。
・制作に提出する際は、「絵と文字 01」を下のレイヤー「コンテ用紙 01」と結合し、1 枚の「ページ番号 1 」にまとめておくのが基本。制作もそのほうがわかりやすい。
・選択したレイヤーを、下のレイヤーと統合するときは　Ctrl+E

【ひとつのファイルのページ数】

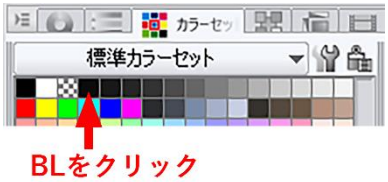
・絵コンテは解像度が高いため、保存の際などにはそれなりに時間がかかる。そのため、あるていどのページ数ごとにファイルを分けて描く人が多い。
・とはいえ、しょせん CLIP STUDIO なので、１ファイル＝50 ページていどならストレスなく保存しながら描いていくことができると思う。（拡張子：clip の場合）
・ファイルの KB 数はおなじ絵コンテでも以下のように大きくちがう。

CLIP STUDIO カラー：400KB
Photoshop カラー：2000KB
Photoshop グレースケール：1000KB

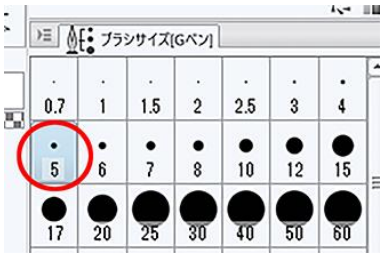
・いずれにしてもマシンスペック勝負なので、１ファイルのページ数や、保存形式、カラーかグレースケール（モノクロ）か、などは好きにしてかまわない。

【ペンを選ぶ】

・ペンツールの「G ペン」をクリック。



・色はブラック。



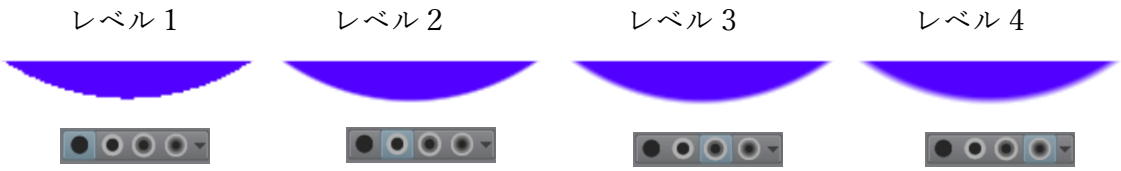
・線の太さは「５」にする。

・ペンのタイプは気に入ったものを使えばよい。（鉛筆ツールを使ってもかまわない）
・線の太さは作品により自由だが、フルショットなら「４」、アップなら「６」くらいで描いてみるといいと思う。
・デジタルなので細かい絵を描く際にはいくらでも拡大して、「１」の線で描くことも

できるのだが、線が細すぎてプリントしたときに見えない。作画はそこまで必要なケースもあると思うが、絵コンテでは細すぎる線は使わないほうがよい。

【アンチエイリアス設定】

・ペンツールではアンチエイリアスのレベルを設定したほうがよい。



・アンチエイリアスがよくわからない場合、おすすめは「レベル 2」

【下描きのしかた】

・シリーズの絵コンテは下描きをしないで描く人が多い。ラフな線が残っていても気にならないためだ。

・そこで絵コンテの下描きとしておすすめするのは、プリントされるとほとんど見えない「1」のペンでアタリをとり、「5」の線で絵を決めていく方法だ。

・これなら 1 枚のレイヤーで完結する。

・下描きをしてから清書したほうが楽な人は、下描きレイヤーと清書レイヤーを別々に作って描く。

【消しゴム】

・消しゴムツール

・「スナップ消しゴム」を選択

・大まかに消すときは、ブラシサイズ「60」

・描いたり消したり、また描いたりするのは手描きとおなじ

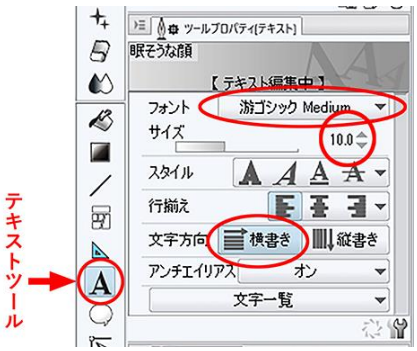
【絵コンテ用紙をロックする】

・透明レイヤーに絵を描き、絵コンテ用紙自体にはさわらないよう、慣れるまでは絵コンテ用紙にロックをかけておくとよい。
・絵コンテ用紙に直接描いてしまうと、デジタルの場合、消しゴムで絵だけを消すことができない。絵コンテ枠もいっしょに消してしまう。

・ただし、ロックされたレイヤーはいかなる操作も受け付けなくなるため、「下のレイヤーと結合」するときなどには、ロックをはずす必要がある。忘れがちなので、「あれっ？」と思ったらロックを確認してみよう。

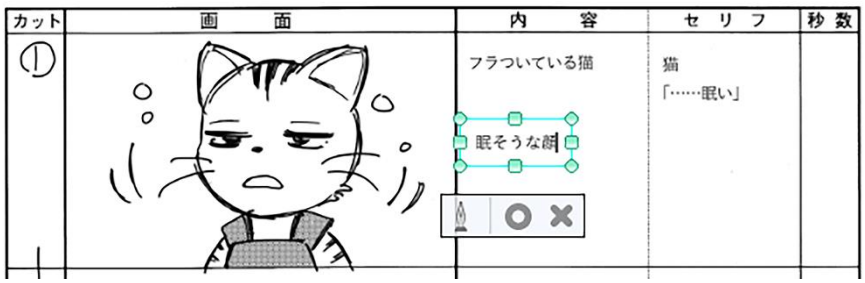
【文字を打つ】

・デジタルでも文字を手描きする（画面で書く）人は多い。
・キーボードで打ちたい場合は以下のようにする。



・テキストツールをクリック
・フォントは「游ゴシック　medium」
・サイズ「10」～「11」
・文字方向「横書き」か「縦書き」

・描きたいところにカーソルを置き、書き終えたら「○」をクリック。



・新規にテキストレイヤーができる。

・テキストレイヤーはあとで文字の書き足しや書き直しができる状態のレイヤー。

・テキストを、絵の一部にしたいときや、変形したいときは、テキストレイヤーを「ラスタライズ」して、絵とおなじタイプのレイヤーにする必要がある。

・ラスタライズのしかたは、テキストレイヤー上で ⇒ 右クリック ⇒ ラスタライズ

【部品を塗り分けしたいとき】

・塗り分けするとわかりやすいカットがある。

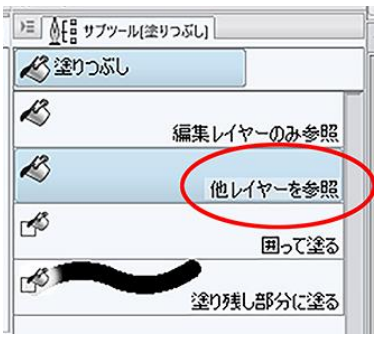
・デジタルなので塗り分けはかんたんにできる。

・方法は以下の通り。

	・塗りたい色をクリック。 ・ペンツール ⇒ サイズを選ぶ。 ・塗る。 ・このとき、線の上から塗ると、線も塗りつぶしてしまうので
	・絵と絵コンテ用紙の間に「新規レイヤーを作り、そこに塗る。
	・絵コンテがカラープリントならこれでよいが、グレースケールでプリントされることがわかっている場合は、最初からグレーで塗ったほうが色の濃さがつかめる。

【塗りつぶしツールを使って塗る】

・絵コンテや原画のカゲ塗りていどの雑な塗りつぶしでよい場合は、「塗りつぶしツール」を使うと速い。

	・ ⇒ 塗り分け用の新規レイヤーを作っておく。 ・塗りつぶしツールをクリック。
	・ ⇒ 「塗りつぶしツール」の「サブツール」 ⇒ 「他レイヤーを参照」をクリックしてから、

	・塗りつぶしたいところを次々 クリックしていく。 ・よく見ると塗り残しがあるものの、 絵コンテならこれくらいで充分。

【スクリーントーンを貼る】

・スクリーントーンを貼りたい部分を次々に塗りつぶす。

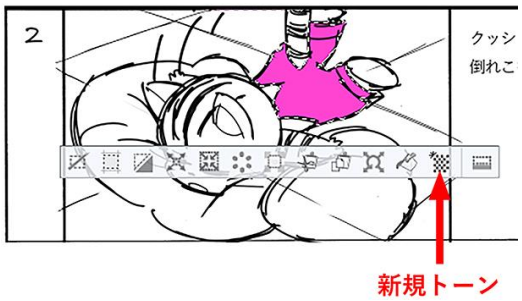
・次にメニュー ⇒ 選択範囲 ⇒ 色域選択

・ ⇒ スポイトのアイコンが出るので

・ ⇒ スクリーントーンを貼りたい部分の色を、どこでもよいのでクリックすると、おなじ色の部分がすべて「選択範囲」の点線で囲まれる。 ⇒ OK

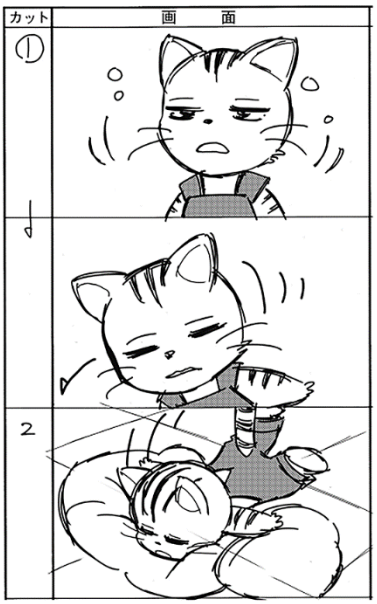
・するとランチャーが出るので ⇒ 新規トーン ⇒ 新規トーン設定 ⇒ OK

このときの「線数」と「濃度」はマンガでよく使われるトーンなので、設定はデフォルトのままでよい。



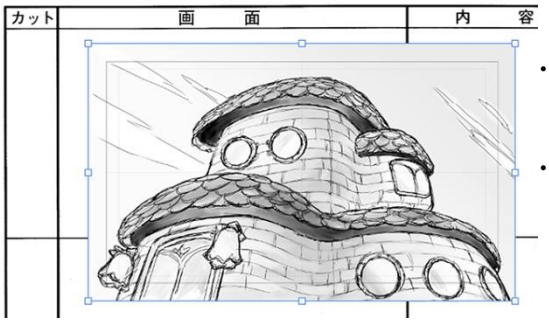
・レイヤーにスクリーントーンのマスクレイヤーができる。
・ピンクの「色分け」レイヤーを非表示にすると

・スクリーントーンが貼られている。



【別のファイルから BANK 画像を持ってくるとき】
・主人公の家など、毎回出てくるカットは BANK として画像を取ってあると思う。
・その BANK を、いま描いている絵コンテに移動してくる初心者向けの方法は

・BANK のファイルを開く。
・BANK 画像レイヤーを選択
・　⇒ 編集 ⇒ コピー



・別ファイルの貼り付けたい絵コンテのレイヤーを選択。
・　⇒ 編集 ⇒ 貼り付けると、こうなる。あとは大きさと位置を合わせて確定。

・ショートカットに慣れている人は、BANK の画像レイヤーを選択した状態で Ctrl+C ⇒ 貼り付けたいレイヤーを選択し　Ctrl +V（Windows の基本ショートカットと同様）が一番早い。

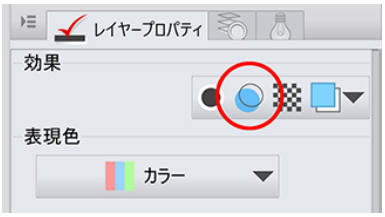
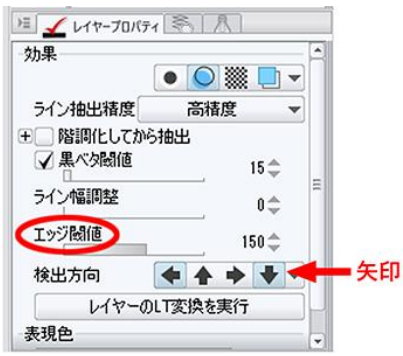
・上図がモノクロで貼り付けられているのは、ファイル自体の「モード」がグレースケールになっているため。カラーで貼り付けておいてかまわない。

【線画作成】

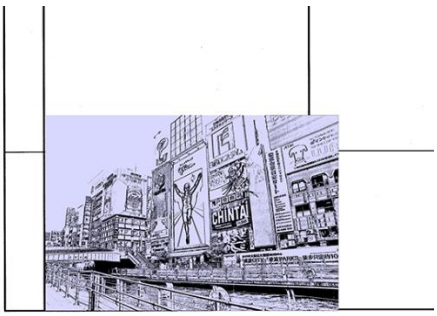
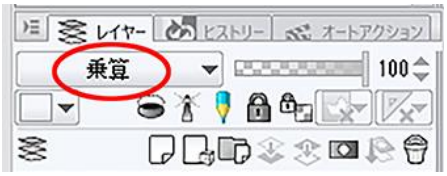
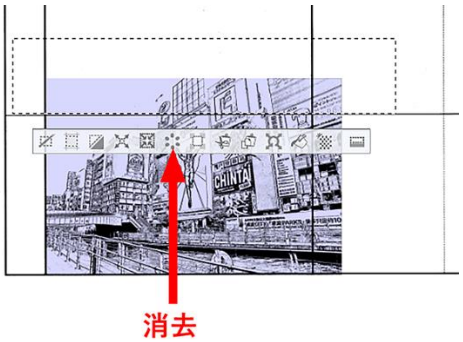
・写真をレイアウトとして使いたいとき、写真をそのまま絵コンテに貼ると見づらいので、写真を線画に加工する。

・カラープリントでよい場合は写真をそのまま貼ってかまわない。

・線画作成の手順は非常に簡単で、以下のとおり。

	・写真のレイヤーを選択した状態で ・赤丸のところをクリック。 
	・こんな感じのものができるが、ごちゃごちゃして見づらいので
	・「検出方向」はデフォルトで 4 方向だが、矢印を 2 つくらい減らし、線をすっきりさせる。 ・さらにすっきりさせたいときは、「エッジ閾値」を上げてやる。
	・これで線画っぽくなる。 ・ほかのパラメータもいろいろ変えて好きにしてかまわない。

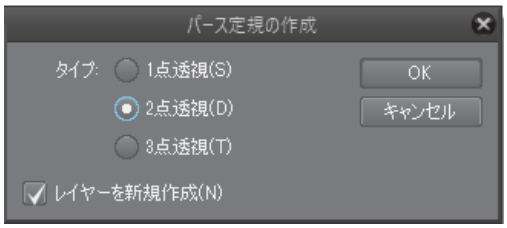
【画像の余分なところを切り取る】

	・ほしいレイアウトより画像が大きい場合は余分なところを切り取る。 （わかりやすく色をつけてある）
	・まず、その画像を「通常」レイヤーから「乗算」レイヤーに変えてやる。 ・すると下の線が透けて見えるようになる。
	①　「選択範囲ツール」 ②　「長方形選択」
	・切り取りたい部分を選択するとランチャーが出る　⇒　消去
	・これでぴったりの大きさになる。

【パース定規の使い方】

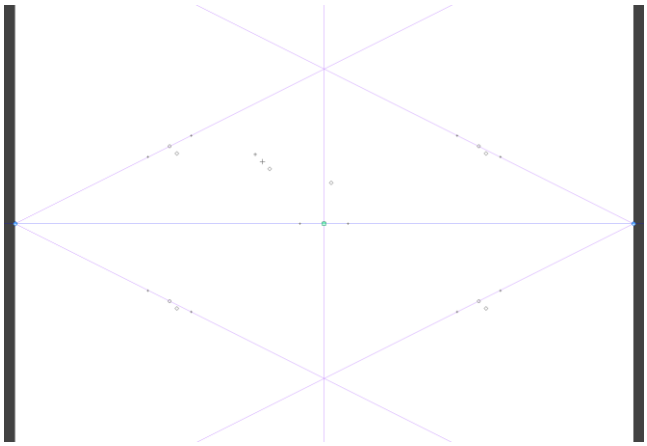
CLIP STUDIO には使い勝手のよいパース定規がある。絵コンテで使うことはないと思うが、作画では使うと便利なときがあるので紹介しておく。

・レイヤー ⇒ 定規/コマ枠 ⇒ パース定規の作成

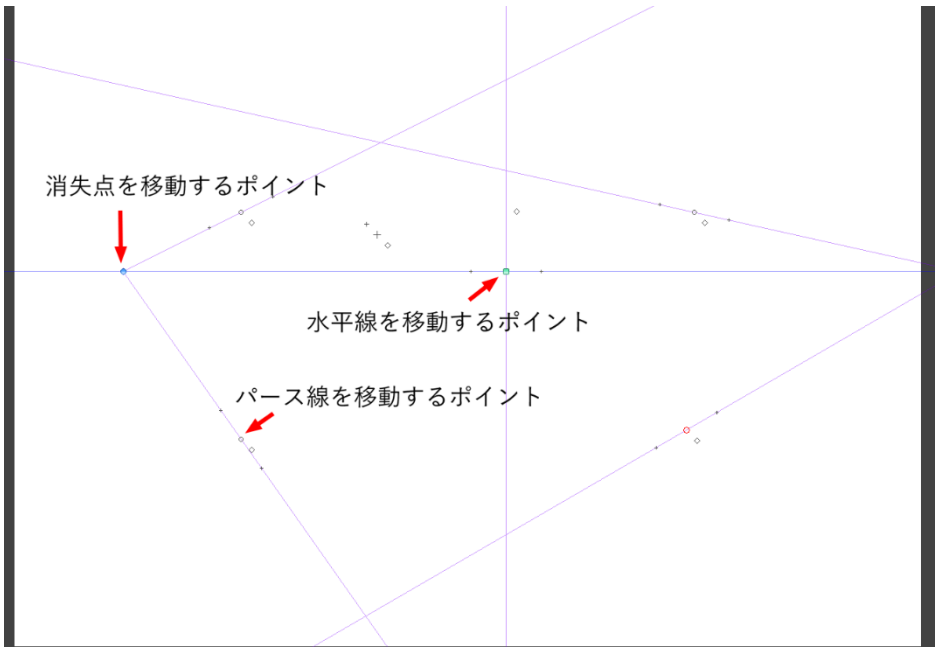


1 点透視などを選択

「レイヤーを新規作成」



こういうものができるので

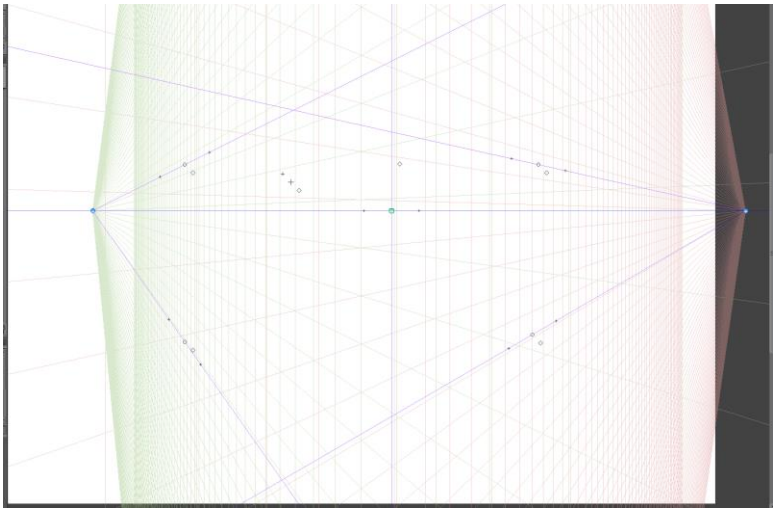


それぞれのポイントをアクティブにして、ほしいパースに調整する。

パースが決まったら

・細かいグリッド線（パースの補助線）を表示する。

グリッド線を表示



・このようなパース定規ができるので、ペンツールなどで線を描くと、パースに合った直線が引かれる。

【パース定規　パース線の色を設定する】

・パース定規はパース線が非常に細く、色も薄くて見づらいので、色と濃さを変えておくことをおすすめする。

・ファイル ⇒ 環境設定 ⇒ 定規・単位　で
　スナップする定規の色を ⇒ 赤にすると少し見やすい。

① デフォルトの色は　HEX：8000FF　紫
　　これを ⇒ HEX：FF1C00　赤　にして

② 定規・グリッド・トンボの不透明度　40 ⇒ 100　にする。
　これで若干は見やすくなる。

【納品】

・デジタル絵コンテの納品は基本的にギガファイル便などで、アップロードした URL を制作に送る。

・その際、できるだけパスワードを設定しておこう。サイト上で使用できるファイル便関係はどこもセキュリティの甘さがよくいわれている。

・デジタル対応している会社なら、会社のサーバーにパスワードで入れる納品フォルダがあるのでそちらを使う。

・画像ファイルは重いので、メール添付すると相手に迷惑。そもそも重すぎるファイルは添付できないケースが多い。

2019 年 7 月　Kamimura　Sachiko

参考資料

※ツール画面は一部セルシスのユーザーズマニュアルのものを使用しました。

※線画作成には Crushman による Pixabay からの画像を使用しました。

※機種の写真は一部 Wacom、Amazon、個人サイトのレビューで紹介されているものを使用しました。